

令和6年度 自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人福岡育英学園 あさかわ幼稚園

1. 本園の教育目標

本園は、美しい自然環境に恵まれた環境を生かし、幼児期に育んでおきたい次の3点の素地を育む。

(1)強い身体作り (2)豊かな感性の育み (3)伝統和食の食育

2. 本年度の重点的に取り組む目標・計画

1.の教育目標に軸足を置き、(1)強い身体作り:正課の中で専任の指導者により体操教室の指導を実施し、子ども達の体力の向上、基礎的運動能力、裸足教育を実践していく。(2)豊かな感性の育み:生活発表会へ向け、絵本から題材を選び、子ども達の主体性を育み、実施していく。(3)伝統和食の食育:本園の給食室で調理した給食の提供により、野菜や好き嫌いの多い子ども達も完食する意欲を育み、食べ物や作り手への感謝の気持ちを育む。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価内容	評価	評価の理由や取り組み内容
保育内容の工夫や諸業務の改善	A	日常保育及び行事に際しPDCAサイクルを意識し取り組んできた中で、各学期の終了時などの反省会では次回へ向けた反省点・改善点が、全体に共有されたうえで次の取り組みへ活かされている。 各職員が業務の在り方を見つめ直し、無駄な業務の改善や効率化を図ったことで保育の質の向上に努めた。
子どもへの見守りと理解・対応	B	子ども一人一人の様子をよく観察し、できたことなどを積極的に言葉にし褒めることで成功体験を重ね、自信をつけている。逆にケアが必要な場合は、個別に保育者が向き合い「どうして?」と原因やきっかけをよく聞き、子どもの気持ちに寄り添い、自分の気持ちや考えを言葉で言えるように接してきた。そのことで、保育者と子どもの信頼関係がより強くなったと思われる。他方で、保育者による個人差も見受けられる点は共通認識が必要。
安全への配慮	B	バスの乗降車の人数や、車内での子どもの体調や様子を気にかけて、預かり保育の際のお迎えの連携、保護者名札の安全確認などは、概ね連携がとれていた。 遊具の点検の実施は間隔が不定期だったので改善していく。

評価 A:達成している B:一部達成している C:一部改善を要する D:改善を要する

4. 幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

評価 A:達成している B:一部達成している C:一部改善を要する D:改善を要する

評価	理由
B	職員全体での実務者研修を実施する等の取り組みにより、共通認識が生まれ、相互理解が深まった。また、保育業務の長い慣例の見直し等も随時図っており、時代のニーズに合わせた対応が出来るよう、各々が課題意識を持ち実践に活かし、解決法をブラッシュアップしていくことで、次の取り組みに活かしている。

5. 今後取り組む課題

課題	具体的な取り組み方法
日々の子どもの意欲向上	幼稚園に登園するのが楽しい!と思える子どもの気持ち、意欲や向上心の醸成に努めていく。お名前を呼んで挨拶する、お友達とのよい関係を作り、感謝の気持ち(ありがとうございます)や、小さな成功体験をたくさん積んで自信につなげていく。叱りときの言葉選びは、特に注意する。
充実した保育の展開	個を見つつ、集団の力を引き出す。興味・関心を持ったことに触れ・試すことが出来、お友達と気持ちを出し合いながら、出来た事に喜びや達成感が感じられる展開に向け取り組んでいく。
危機管理体制を整える	園での火災や地震を想定した避難訓練を、地域の消防署や警察署、自治体と連携しながら防災意識を高め、防犯訓練も加えて実施していく。また園舎建物も、昨年のリノベーションに伴い常に安全点検を心掛け、補修していく。
食育の充実を図る	園庭で実った果実を使った熱中症対策や、お料理教室が好評だったが、今年度は親子で楽しめる内容で更なる充実を図る。

6. 学校関係者評価委員会の評価

- ・ICTを生かした取り組みや、保育面では行事の周知や連絡事項が細やかでわかりやすくなった。
- ・行事や園生活のルールなど、これまでの規制が徐々に緩和され、保護者の意見や要望も柔軟にとりいれている。
- ・園生活の中で、学年全体の成長と共に、子ども達がひとりひとりがのびやかに自己表現を体現していると感じる。先生方の手厚い保育の取り組みに頭の下がる思いです。
- ・食育の取り組み。苗差しから取り組んださつま芋や無添加にこだわったおやつ作り、料理教室での「みそづくり」は子どもたちにとって貴重な経験になっている。玄米和食の給食は、他園では味わえないこだわりと美味しさです。これからも衛生管理には更に気を配って取り組んで頂きたい。

委員会実施日:令和 7年 3月 28日